

人間の品質管理

人間は”モノ”や”サービス”ではない。

当然ながら、「人間の品質管理」は、本来「人格をどのように高めるか」と表現すべきではあるが、”人格”以前の「反社会的な考えを持たれた方」や「非人道的な言動を行う方」や「経済が最優先と銘打つ方」も少なからずいらっしやるのは、事実であるから、そのように表現せざるを得ないし、止むを得ない。

昔は、地域社会や職域などの組織的な”歯止め”が効力を発揮していたのだが、いつからかは明らかではないが、所謂”無縁社会”にドブプリと浸かって、”歯止め”が効かない、極めて自己中心的な考えを持たれた方が、増えだしている。また、主にその職域に於いても、経済が最優先の目的である限り、その（法）人格は、ないがしろにされている。

つまり、「法に抵触しなければ、何をやっても構わない」的な、脱法思想を以って活動されている方々（増殖中）や、何が違法か分からず、自己や組織の金銭的利益を最優先するあまり、「ヤバイ」と薄々気づきながらも活動されている方々は、結論的には、社会の毒となり得るし、事実、そうになっている。

したがって、人間界全てとは言わないが、その一部に於いては、”品質管理”を実施せざるを得ない人が存在することは、事実であるし、何らかの措置が必要とされている。

では、何を”正としての評価基準”として、取り上げなければいけないのか。

倫理・哲学・道徳・・・何か統一された”価値基準・標準”が必要なのであるのか。

現代社会にマッチした、新しい全世界共通の”神”を創造することが、真理なのか。仮に、その品質管理の下、”神”が完成し、究めようとする人間達が、その”神”に近づくべく精進・努力し、結果、その甲斐あって、人間から”神”が誕生し、その品質管理の改善結果、次々と”神”が誕生したとしよう。仮にそうなったら”神間”でもまた、価値観の齟齬が主たる起因となる”宗教戦争・経済戦争”が始まることとなる。

そこで、”神”の多様性・多態性が尊重されることになるのだが、”神”であれば、何もかもが多様性・多態性の下、許されるものではないし、もし、それらが全て許されるのであれば、元の本阿弥となる。またも何らかの”歯止め”が必要となってしまう。

一方、人間全員”神”になれるわけではないし、その”神”も人間によって創造されるのであるから、一概には決めつけられない。もし、AIが発達し、AIが人間のあるべき指針の”神”を創造したならどうなるのであろう。恐ろしくて、それ以上想像できない。

もう一度、足下をよく見て、慎重に「人間の品質管理」を見直してみるが、「キレイ事では、飯は食えない」と、おっしやる方もいらっしやるから、全く分からない。